

Bibliophiles

ビブリアファイルズ No.8(2021年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館

(ここで紹介するのは新しい本の一部です。)



『護られなかった者たちへ』

中山 七里

佐藤健主演で映画化された人気作です。ジャンルでいえば「社会派ミステリー」。普通のミステリーと違うのは、社会問題について読者に考えさせる側面があることで、この作品は「日本の生活保護制度」をテーマとしています。

震災から立ち直りつつある仙台市。両手を拘束されたうえ口をガムテープで塞がれ、餓死した遺体がアパートで見つかりました。周囲から善人という噂されない被害者が、なぜこんなむごい殺され方をしたのでしょうか・・・

『すばらしい人体』

山本 健人

ちょっと想像して欲しいのですが、あなたがもし走りながらスマホで動画を撮影したらどうなりますか。きっと映像は大きく揺れ動いて、とても鑑賞できるものではないはずです。でも、あなた自身が走っても、「世界が揺れ動いて見える」なんてことは当然、ないですよ。なぜ？実は人間の体には、視界を揺らさないための精巧なシステムが備わっているのです。この本は、こんな知っているようで知らない、あなたの体の秘密が満載です。

『自壊するメディア』

望月 衣塑子・五百旗頭 幸男

ひと昔前までは、ジャーナリストが政治家に鋭い質問を投げかける光景が見られました。しかし今はメディアは政治家や権力者に「忖度」するようになり、当たり障りのない質疑応答が当たり前のように反復されています。この本の著者の二人のジャーナリストは、こうした最近のメディアの傾向を批判し、メディアには「権力の監視」という社会的な責任があると語ります。特に監督した映画『はりぼて』が絶賛された宝塚市出身の五百旗頭(いおきべ)氏にご注目下さい。

国語科の先生方の選書です！

『高校古文こういう話』シリーズ

柴田 純子

作者は、以前塾で教えていた時に「古文は現代語訳を読んでもよく分らない」という感想を聞かされて、得意の漫画で古文を解説しようと思いついたのだそうです。そう、この本は「古文の漫画訳」なんです。ということで、特に古文が苦手な諸君にお勧めします。また河合塾の松尾佳津子氏が監修を担当しており、原文や重要ポイントも詳しく載っています。

『戦国 忍びの作法』

山田 雄司

「最後の忍者」と呼ばれる藤田西湖(1899-1966)によれば、忍者はその場で上にジャンプすると2.73m、その場で前にジャンプすると5.46mに及び、いずれも五輪の現在の世界記録を超えていたそうです。(!) またアニメなどでよく見る「分身の術」の正体については諸説ありますが、有力な仮説は催眠術か幻術の一種で「敵に取り囲まれている」という暗示をかけた、というもの。ちなみに忍者の加藤段蔵は、幻術で一頭の牛をのみこんで見せた、とされています。忍者好きなら、ぜひ手にとってみて下さい。

『ぼくはイエローでホワイトで、

ちょっとブルー 2』 ブレイディ みかこ

ノンフィクション本大賞を受賞した国民的ベストセラーの前作から2年。イギリスで生活する筆者の「息子」も13歳となり、本格的な思春期に突入しました。大人への階段をのぼり始めた「ぼく」を軸に、教育や文化、政治、民族といった多彩な視点と巧みな筆致で「英国の日常」を描きます。



物理の先生方の選書です！

『Dr. STONE (ドクターストーン)』

原作: 稲垣理一郎、作画: Boichi

すでにTVアニメも放送済みの人気漫画です。全人類がある日突然、石に変身してしまい、およそ3700年後に主人公の石神千空は目覚めました。果たして人類は石から復活するのか、それとも滅亡か？

『だから僕は大人になれない』

ぺいんと

ゲーム「マインクラフト」の実況中継で人気のYouTuber・「ぺいんと」氏が、初めて本を出版しました。現在チャンネル登録者数が160万人を超える人気者ですが、ぺいんと氏が動画で広告収入を得た高校生の頃はまだ「YouTuber」という職業に対する認知度はないに等しく、周囲からあまり理解されていなかったそうです。そんな彼のこれまでの半生を振り返るエッセイ集と、独特のドライな味わいを持つ短編小説の数々を、どうぞ。

『ドキュメント』

湊 かなえ

これも国語科の先生方の推薦本です。高校の放送部の部活をテーマにした作品で、3年前の『ブロードキャスト』(図書館にあります!)の続編にあたりますが、前作を読んでいなくても十分に楽しめますよ。

主人公の町田圭祐は中学で陸上をやっていましたが事故で怪我をして、ひょんなことから高校では放送部へ。そして全国大会を目指すのですが・・・目まぐるしいストーリー展開が圧巻です！

今号のひとこと

“ダメな子”とか、“わるい子”なんて子どもは、ひとりだっていないのです。もし、そんなレッテルのついた子どもがいるとしたら、それはもう、その子たちをそんなふうに見ることしかできない大人たちの精神が貧しいのだ、ときっぱり言うことができるとおもいます。※

手塚 治虫(1928-1989)

『鉄腕アトム』や『火の鳥』などの名作により、「漫画の神様」と呼ばれた手塚治虫。そんな彼は小学生の頃は「いじめられっ子」で、いじめられないためには何か自分にしか出来ないことをやろうと漫画を書き始めたそうです。そして小5の時に書いた漫画が担任の先生が目にとまり、才能を見込まれて漫画家になることを勧められました。手塚はその先生を「恩人」と呼んでいます。

※『ガラスの地球を救え』より